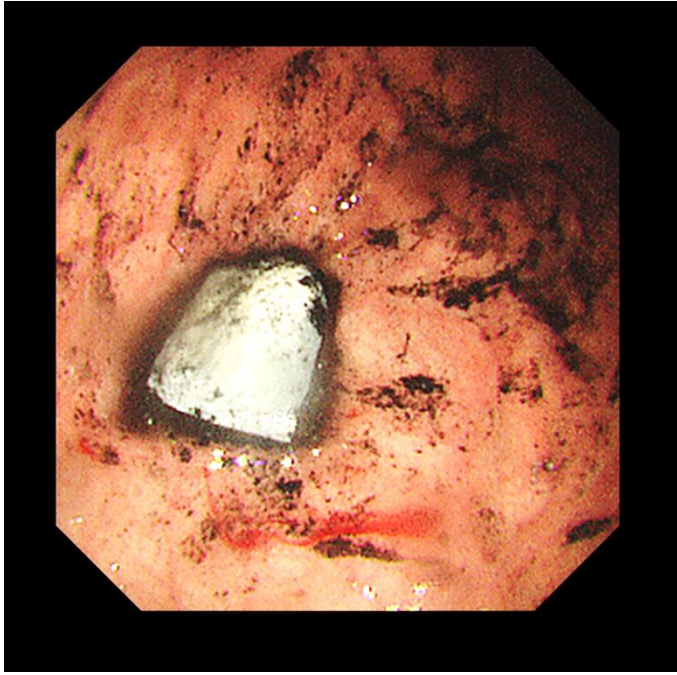


Injury Alert (傷害速報)類似事例

金属片を内蔵した加熱式タバコの誤飲による胃粘膜損傷 (No.121 金属片を内蔵した加熱式タバコの誤飲による消化管異物 7)

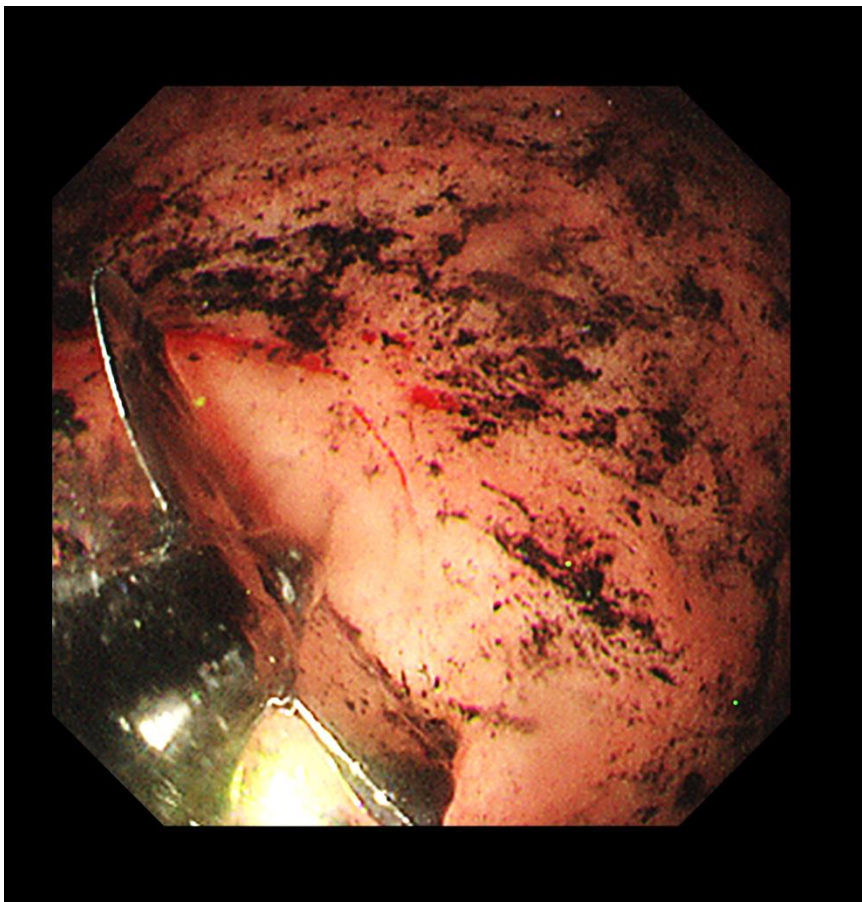
事例	基本情報	年齢：0歳 11か月 性別：男児 体重：9.3kg 身長：74cm
	家族構成	父、母、兄、姉2人、本児
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		タバコ誤飲、異物誤飲（金属片）、胃粘膜損傷
医療費		入院 477,400円
原因対象	対象名称	加熱式タバコ、金属片内蔵タバコスティック
	入手経路 使用状況	母が吸っていた加熱式タバコスティック。本児の近くにタバコスティックが入ったかばんを置いていた。元々母はかばんに加熱式タバコスティックを入れて管理しており、これまでも本児が度々母のかばんを漁りタバコスティックを触っている姿は目撃されていた（口に入れることはなかったため、特に置き場所を改めることはしなかったとのこと）。
発生状況	発生場所	自宅の寝室
	周囲の人 周囲の環境	発生時の様子に記載
	発生年月日	2022年7月X日（日）午前8時30分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	7月X日午前8時ころ母と本児が起床し、母は隣の部屋でミルクを作った。調乳中同胞は寝ており、誰も本児の行動を見守る人はいなかった。その後哺乳を行おうとしたが、ぐずっている様子があり哺乳をせず様子を見ていたところ、午前9時17分に嘔吐があり、その後顔色不良があった。タバコ誤飲を疑い父が口の中に指を入れたところ紙（タバコスティックの外側の紙と思われた）が出て、その後もぐったりしていたため救急車を要請した。本児の近くに母のかばんが置いてあり、中を確認するとタバコスティックが1本減っていたため、本児が誤飲したと予想された。救急隊到着時は啼泣なく活気に乏しい状態であった。SpO ₂ が90%前半であったため酸素投与を行いながら医療機関へ搬送した。

<p>医療機関受診時 以降の治療経過 転帰</p>	<p>同日午前 9 時 39 分に到着、体温 37.2℃ 心拍数 158/分 呼吸数 22 回/分 SpO₂ 100%(O₂ 3L マスク)であった。嘔吐・活気低下を認め、誤飲から 1 時間程度である可能性が高く、同医療機関の小児科医へ紹介となった。状況から胃洗浄の適応と判断し胃管挿入後微温湯で胃洗浄を行い、クエン酸マグネシウムと活性炭の投与を行った。</p> <p>胃洗浄開始時は茶色混じりの白色（ミルクと思われる）液体が引けたが洗浄を 4 回施行し透明になったことを確認した。</p> <p>胃洗浄処置施行中に別医師が詳細を母に確認したところ、摂取したと推測されるタバコスティックの中に、金属片が入っていることが分かった。</p> <p>胃洗浄終了後に胸腹部 X 線を撮像したところ、四角形の異物が確認された。</p> <p>金属片による消化管損傷のリスクを考え、消化器内科医師とともに鎮静の上、透視下で金属片の位置を確認しながら上部消化管内視鏡で摘出した。胃穹隆部大弯に金属片(11mm×4mm 大)と円状のスポンジを認めた。生検鉗子で金属片を回収し透視下で金属の遺残がないことを確認した。胃粘膜に線上の出血痕(図 1)を認めたが、同部位から活動性出血は認めなかった。</p> <p>摘出後は経過観察目的に入院とした。入院後より覚醒し、同日夕方に 38℃の発熱を認めたが以降の意識レベルは清明で嘔吐などの消化器症状も認めなかった。X+1 日には解熱を認め排便に便潜血も認めなかったためミルク哺乳を開始、X+2 日目に離乳食を開始し以降も消化器症状などを認めず血液検査でも臓器障害や炎症所見の上昇を認めず X+4 日目に退院とした。</p> <p>X+11 日後に外来を受診し、以降のタバコの管理の確認を行った。また、これまでに同胞にも異物誤飲のエピソードがあったことから、市の保健センターへ定期的な訪問を依頼した。</p>
<p>キーワード</p>	<p>加熱式タバコ、異物誤飲(金属片)、消化管内異物、胃粘膜損傷</p>

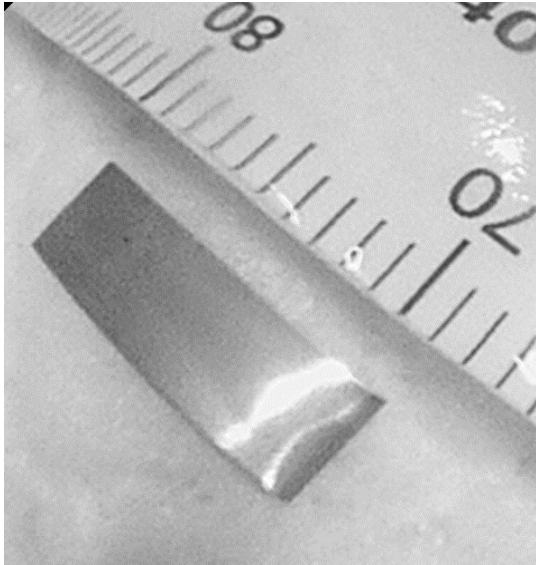


【図1】上部消化管内視鏡写真

(a) 金属片の18時方向に線上の微小出血跡を認め、金属片による胃粘膜損傷が示唆される（黒色部分は上部消化管検査の前に注入した活性炭）



(b) 胃粘膜損傷と思われる洗浄出血跡が見られる



(c) 取り出した金属片

製品情報ではステンレスでコーティングされているとのことであるが、長方形型の切片は丸みがなく、ザラザラしており、とくに角は鋭利である